

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：春田勇輝

氏名のローマ字表記：Haruta Yuki

所属：東京外国語大学大学院

専門分野：言語学

発表のタイトル：土族語互助方言における円唇母音[ɔ]と[u]の出現条件から考えるモンゴル祖語の母音調和の対立

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表の目的は、土族語互助方言における母音[ɔ]と[u]の出現条件をもとに、モンゴル祖語における母音調和に関する2つの仮説を整理し、比較することである。

土族語互助方言をはじめ、シロンゴル・モンゴル諸語(東部裕固語と康家語を除く)は、モンゴル祖語の4つの円唇母音(\*o<sub>1</sub>, \*o<sub>2</sub>, \*u<sub>1</sub>, \*u<sub>2</sub>)が2つに合流し、(\*o<sub>1</sub>, \*o<sub>2</sub>>)/o/と(\*u<sub>1</sub>, \*u<sub>2</sub>>)/u/を有するようになった。清格尔泰編(1991:23)では、土族語互助方言に/o/と/u/の2つの円唇母音を音素としてたてる。いくつかの語に観察される[ɔ]と[u]は/o/の異音として、口蓋垂子音に後続するとき(/o/→[ɔ]/x,ç,ŋ), もしくはç,ŋに先行するとき(/o/→[ɔ~u]/\_ç,ŋ)に現れると述べる。さらに語彙集(哈斯巴特尔等編 1985)も含めて円唇母音の現れを整理すると、[ɔ]と[u]は[o]もしくは[u]と相補分布をなすため、[ɔ]と[u]をそれぞれ単独の音素としてたてる積極的な理由はない。清格尔泰編(1991:23)もこの点をふまえて、[u]を/o/の異音とみなすが、これは暫定的なもの、つまり/u/の異音とみなせる可能性もあると述べている。言い換えると、円唇母音は2つのみたてるのが妥当と考えられるが、[ɔ], [u]を/o/, /u/のどちらの異音とみなすべきかは断定できない。そこで本発表では、[ɔ]と[u]に先行する子音が主に口蓋垂子音に限られることに注目する。なぜなら、母音調和を有していたと推定されるモンゴル祖語は、後続母音によって条件づけられる軟口蓋子音と口蓋垂子音の交替規則を有していたからである。

発表ではまず、文法書・語彙集における記述を整理し、円唇母音[ɔ]と[u]の出現状況を提示する。次に、[ɔ]と[u]の現れに関連して、モンゴル祖語の円唇母音の対立に関して口蓋調和もしくは咽頭調和を想定する2通りの仮説があることを提示する。口蓋調和は従来モンゴル祖語に想定されてきた体系であるが(Svantesson 1985)、咽頭調和は近年提唱されたものである(Ko 2012)。そのうえで、2つの仮説について、仮説と現在のシロンゴル・モンゴル諸語における円唇母音の出現条件との整合性について、検証する。

### 参考文献

清格尔泰編.1991.『土族語和蒙古語』(蒙古語族語言方言研究叢書 013).内蒙古人民出版社

哈斯巴特尔等編.1985.『土族語詞匯』(蒙古語族語言方言研究叢書 014).内蒙古人民出版社

Ko, Seongyeon.2012.*Tongue root harmony and vowel contrast in northeast Asian languages*. PhD dissertation,Cornell University.

Svantesson, Jan-Olof.1985. Vowel harmony shift in Mongolian. *Lingua* 67. 283-327.